農研機構　農村工学研究所
National Institute for Rural Engineering

- 研究者の横顔 -

若杉晃介（WAKASUGI，Kousuke）

写真１　田植えの補助

主任研究員
修士（農学）……（９月に博士（農学）を取得予定）
　　1976　大分県生まれ
　　2001　宇都宮大学農学部農学研究科　修士課程修了
　　2001　農業工学研究所採用　水田整備研究室配属
　　2006　農研機構農村工学研究所　水田汎用化システム研究チーム
　　2011　農地基盤工学領域　水田高度利用担当
（受賞歴）
　　2008　NARO RESEARCH PRIZE（農研機構理事長賞）受賞

研究者の横顔

＜現在の専門分野＞
　食料自給率の向上を目的とした、水田の田畑輪換を可能とする基盤整備技術について研究・開発を行っております。現在は地下水位制御システム（図 1）の利活用技術や省力的な農地管理技術の開発に携わってます。

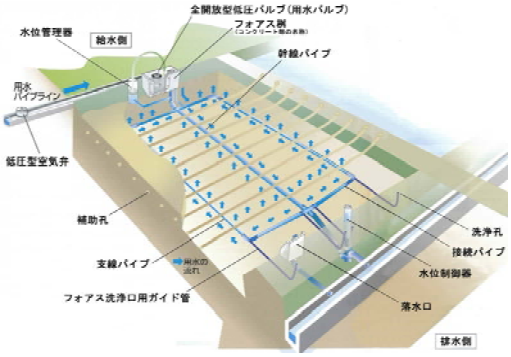

図１　地下水位制御システムの概要

＜仕事の内容＞
　地下水位制御システムを利用した際の用水需要量を国内 7 カ所で調査する計画基礎諸元調査（農水省）に係わったり、除草労力を軽減する畦畔管理技術や GPS を活用した水田の均平化技術の開発をしてます。また、農工研が実施している研修では、国や県などの技術者に対し、水田の用水量計画作成に関する講義やほ場調査実習の講師もしております。昼休みは体力維持とダイエットを兼ね、近隣の動物衛生研究所でサッカーをしております。ちなみにチーム名は「アニマル」です。

写真２　水田のトンボ

＜トンボのたんぼ＞
　水田の整備に関する研究をしていますが、実はトンボオタクです（写真２）。トンボはたんぼと古くから強い関わりを持っており、農村の自然の豊かさを表すバロメーターとしても活用できます。人にも環境にも優しい水田整備をモヤモヤっと模索中です。

＜その他＞
　水田は全国各地にあるため必然的に出張が多く、年間 100 日程度は国内を飛び回っており、既に全 47 都道府県を調査などで訪れております。そして、サッカーで鍛えた脚力を使って、夜な夜な各地の居酒屋を巡り、地酒と地物を食すことが楽しみのひとつになっています。ちなみに、日本酒は栃木県の「鳳凰美田」や新潟県の「鶴の友」、地元茨城県では日本最古の蔵元、須藤本家の「ゆすら」がオススメです。また、全国各地の寺社巡りもちょっとした趣味ですが、少し爺くさいので最近はパワースポット巡りと言っています。